

豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構

## ペナンだより

1年間を振り返って

(第11号 平成28年3月15日)



「2年で英語をしゃべれるようにするぞ」とかなり入れ込んで英語の勉強を始めたのが2013年の5月でした。この研修の募集を見たときに、「私のための研修に違いない」と信じて応募。2年目に採用の通知をいただきました。

憧れのニューヨークは私を裏切ることなく、雑多で混沌としていて、汚くて活気があって自由で寛容で。本当にたくさんの人と知り合い助けられ、時には助け、素晴らしい6ヶ月を過ごすことができました。

私の場合ニューヨークへの傾倒が大きかったのでペナンには期待していなかったのですが、本当に充実した2ヶ月でした。ニューヨークとは異なるマレーシアの多様性と人々の温かさに触れ、英語で授業を行うというミッションもなんとか遂行しました。まさに視野が広がったという感じです。どこもそれぞれ歴史があって今があるのだという当たり前のことなのですが、グローバルとは？という4月1日の授業で問われた答えを見つけた気がしています。

さて、日本に戻って私に何ができるだろうと今考えています。この1年間一緒に過ごした研修仲間はもちろん、豊橋技科大の方々、Queens Collegeの先生方や学生さん、USMの先生方、機構の方々と、自校で教えているだけでは知り合うことがなかったであろう人たちとのネットワークを大切に、私が経験したことを礎にできることを探して行きます。英語の方は3年経った今もまだまだ思うようには話せませんが、なんとかという自信がついたことは私にとって大きな収穫です。今後さらに上を目指して、勉強を続けていきたいと思っております。

最後に、この研修の機会を与えてくださり、快く私を送り出してくださり、私を助けてくださったすべての皆様に感謝申し上げます。

本研修を通じて、いろいろな人と出会いました。中でも印象深い出会いは、ニューヨークでのELIのクラスメートだった親友ニコラスです。ニューヨークへ行く前の豊橋での研修では、自分の授業がいかにもダメなのか思い知らされ、それでも自信を持ってと言われ続ける大変辛い時間でした。そのような落ちこぼれの状態から吹っ切れたのは、いつも励ましてくれ、力になってくれたニコラスのおかげでした。ELIのクラスが終わったあとの期間も、毎週1回2時間ずつ、専門授業を教える練習相手になってくれ、熱心に授業内容について耳を傾けてくれました。英語で行う授業において一番重要なのは、授業する相手、すなわち学生だということを改めて感じました。誰に向かって話すのか意識を変え、できなかったことが段々できるようになっていきました。QCのラップアップの模擬授業でも、関心を持って聞いてくれる学生や友人を招き、その人たちに向かって話そうと考えることで、何をどのように準備していけばいいのかが見えてきました。ニコラスの他にも、休日に参加していたアカペラの学生にも温かく迎え入れてもらい、豊橋の学生、QCの学生、先生、友人にもたくさんの励ましをもらいました。研修を通してたくさんの人からもらったencouragementが、自分を成長させてくれたと思います。最後のマレーシアでは、自分の強みを理解し、自分に何ができるか、どのように貢献できるかを考え、自信を持って授業をすることができました。マレーシアの人たちは、先生、学生も皆、大歓迎してくれ感激しました。この研修を一言で言うと、“武者修行の旅”という言葉がぴったりだと思います。たくさんの人との出会いを通じて自分と向き合い、英語を使うことで自分の限界を超えることができた気がします。

この1年は、私の人生の中で最も貴重な経験となりました。私がこのFDプログラムに応募した理由は、一教員、研究者として英語のスピーキング力を向上させたいと思ったからです。私がこのプログラムの公募を知ったのは、ちょうどポーランドで開催された国際会議から帰ってきた時のことでした。その国際会議では思うように他の参加者と会話ができず孤立感を感じる、という苦い経験をしました。そのとき、もっと英語を勉強しなければならない、できれば外国で勉強したいと思いました。それまで海外に1ヶ月以上滞在したことがなかったのでこのFDプログラムのメンバーに選ばれたときはとても嬉しかったのを覚えています。

このような理由から、1年間、英語による教授法の習得、というよりも英語力の向上に着目して取り組みました。クイーンズカレッジでは、異なる多くの科目に参加する代わりに、“College Writing”の授業にセメスターを通してほぼ全てに出席し、また、Language partnersとの会話の時間を多く取るようにしました。私たちのための特別クラスであるTiEでは、たくさん話してたくさん英語での質問をするように心がけていました。

クイーンズカレッジでの経験により、私は毎回小さなゴールを設定してそれを達成できるように取り組む習慣ができました。その習慣は、マレーシア滞在中も変わりませんでした。マレーシアでの実践講義では毎回目標を決めてそれを達成するように取り組みました。

たった1年でしたが、私は、困難な状況を乗り越えるための考え方や戦略が変わったように思います。小さなゴールを設定することで、困難な状況を楽しめるようになりました。これらの小さなゴールの積み重ねは、将来、私の夢を叶えてくれると信じています。このプログラムで助けてくださり、支えてくださった皆様、どうもありがとうございました。

FD研修を終えてやっとグローバル教育を行う出発点に立てたと感じる。マレーシアのUniversiti Sains Malaysia (USM)と、Politeknik Seberang Perai (PSP)において英語で授業を行う機会が与えられた。英語で授業を行う能力を正確に評価できたので、FD研修の最後で行ったこれらの授業は自身にとって最も貴重な経験である。私の英語が堪能でないにもかかわらず多くのマレーシアの学生が授業に出席してくれたことに本当に感謝したい。FD研修に参加する以前は、英語で授業を行うために、どの能力を伸ばさなければならないかさえも明確ではなかった。しかし現在、その能力が何であるかがわかるし、それらの能力を自分自身で伸ばして行くことができると感じる。より質の高い英語での授業を行うためにはさらにその能力を向上させなければならないけれども、英語での授業を始め、改善を続けながら授業を行うことができると思う。アメリカとマレーシアでの滞在期間中に、「グローバル化」について考える機会も与えられた。もちろん英語で話すことや外国における生産がグローバル化を本質的に意味するものではない。「グローバル化」の本質を正確に教えることは難しいけれども、「グローバル化」について学び考えるために、外国人に出会い、また外国文化に触れるより多くの機会を学生に与えなければならないと強く思った。高い目標を持ってグローバルFD研修に参加する他高専の教員と出会えたことも私にとって貴重な経験であった。彼らはいつも高専におけるより良い教育について考えるきっかけを与えてくれた。私と共にFD研修で活動してくれた彼らに感謝したい。またFDプログラムを支援して下さった豊橋技術科学大学と高専の教職員の皆様にも非常に感謝しています。

NY の研修が始まる前から、私は本当に 2 時間にわたる英語講義ができるかということで、ずっと心配していた。それで前もって講義に使われそうな資料を集めたり、優れた講義を聴講したりした。分かりやすい説明の仕方については、QC の TiE 授業で出た表現を採用することにした。しかし、英語を勉強すればするほど、英語の壁はさらに高くみえたのが本音だった。大切なのは、一日どれくらいの時間を英語環境にさらすかによって英語研修の効果は増倍する。それが講義力につながると信じて努力してきた。

振りかえってみると、英語の授業や英語による学生指導を実施したことで英語力がさらにアップされたと実感している。マレーシアにおける実践研修は自分の英語力を試す絶好の機会だった。授業中に学生から予期なしの質問を受けたり、Final Project の研究指導で即興的にコメントしたりする姿は、おそらく本当の自分の英語力だったと思う。50 日余りという短い期間ではあったが、自分の講義力を客観的に把握できる、とても有意義な研修だった。

これからどうやってその英語力を維持・展開するかが今後の課題である。まずは、外国人留学生を支援していきたい。彼らは地域交流を初めとする国際交流に活用できる良い人的資源であるからだ。二つ目に、学内の国際交流プログラムの質を向上していきたい。より多くの学生に教育効果の高いプログラムを提供する予定だ。三つ目に、英語による専門授業への展開を実行していきたい。授業の一部を英語で実施する取組により、英語が苦手な学生も自然に英語を身につけられるような環境を醸成していく。最終的に専門の授業は本格的な技術英語のみでの授業を目標とする。

最後に、グローバル FD 研修の関係者の皆様、一年間本当にお世話になりました。

本プログラムの第一目的は「グローバル人材“育成力強化”」です。すなわち、自分がグローバル人材になることは前提で、そのような学生をいかに育てるか、ということです。例えば英語で講義をすることはそのための方法のひとつにすぎません。この研修が終わった後に、ここで得た成果を学生教育にフィードバックして、グローバル力を持った学生を多く世に送り出すことが本当のゴールであり、プログラム自体は修了するものの、私たちの取り組みは今後もずっと続きます。

では、「プログラムで得た成果」とは何でしょうか。私個人としてですが、本研修では NY、マレーシアという多種多様な文化や人種が共存する中でコミュニケーションツールとしての実践的な英語の活用(講義を含む)、文化の相互理解と尊重ということがあげられます。言語は何でもよいと思いますので本当に大事なことは文化の相互理解と尊重だと思います。「相互」の部分がとても重要で、グローバルが進めば進むほど自国の文化を相手に話す機会も増えると思います。例えばイスラム教が国教であるマレーシアで日本の宗教信仰や神道についてきかれたときに(実際にあったことです)、イスラム教に基づく相手の思考方式を理解するとともに、八百万の神がいる意味やそこから生まれる感謝する精神を相手に理解してもらう必要があります。それにより、よりスムーズにお互いの行動に納得がいきます。外に出ていく前に学生たちは自国のことをきちんと理解しているでしょうか?また、どちらかの文化の一方向的な押し付けでは絶対に同じ目標に向かって共に仕事をしていくことはできないでしょう。そのようなことを講義や海外研修をはじめ、様々なやり方で学生に伝えていけたら、と思っています。

最後に、本研修において多大なるご協力・ご支援を頂戴した国立高専機構および函館高専、豊橋技術科学大学、Queens College、PSP、USM(engineering campus)の関係各位に感謝するとともに、深くお礼申し上げます。

この研修において、ニューヨークで 6 ヶ月、ペナンで約 2 ヶ月と、初めて海外で長期間の生活を行いました。大きな驚きはありませんでしたが、生活習慣や考え方の違いなどを実際に体験することができました。また、私はあまり抵抗なく海外で生活できる人間であることがわかりました。

1年間の研修は、今までの人生の中で、最も英語を聞き、読み、話し、書いた期間であったことは間違いないと思います。その中で、どれだけ各能力を鍛えられたのかというと、リスニング力は上がったように感じますが、その他は思ったよりも伸びていないというのが個人的な評価です。頑張りが足りなかったということもありますが、それだけ英語の各能力を伸ばすには時間がかかるということを改めて認識させられました。特にスピーキングに関しては、これからも継続的に強化していく必要性を強く感じています。この 1 年間の様々な経験を学生に伝えていくことも私の役割であると思っています。

英語での授業については、研修前にはできるとも、やろうとも思っていませんでした。現在は、時間をかけて準備すれば、たどたどしいながらも何とかできるようになったという段階です。英語で効果的な授業を行うためには、さらに使える英語表現を増やすとともに、授業設計や教授力そのものを向上させていく必要があると感じています。この研修の参加者として、高専での英語による授業の展開に向けて貢献していきたいと思っています。

来年度からは、宇部高専の国際交流室の一員として、国際交流に携わることになりました。学生の海外研修派遣や海外からの受け入れ学生のサポートなどに、この研修で学んだことを活かしていきたいと思っています。

最後になりますが、この研修への参加に際し、ご協力、ご支援いただき皆様に感謝申し上げます。

グローバル人材育成力強化プログラムに参加して、最終的に気が付いたことは、私自身がグローバルな考え方を持っていなかったということでした。私が本研修に参加した理由は、授業を英語で行う方法を身につけたかったからです。授業で必要となる教室英語を身につけ、授業を英語化することができれば、学生の英語力向上につながりグローバルに活躍できる人材を育てることにつながることにと思っていました。

このため、マレーシアでの研修期間中でも、英語で授業を行うために何をすべきかだけを考えており、マレーシア語や文化を学ぼうとは思っていませんでした。

しかしながら、GFD メンバーがマレーシアの人にマレーシア語で挨拶をしている姿を見た時、マレーシア語で挨拶をすることが英語で挨拶をするよりも親近感を持ってもらえているように感じました。グローバル人材とは、英語を上手に話すことよりも相手を理解しコミュニケーションを取ろうとする人材だと改めて感じました。

今後は、本研修での経験を活かせるように、高専教員としてグローバル人材育成のために何をすべきかを考えながら、学生がツールとしての英語を身につけるための授業の英語化を行っていきたいと思います。

最後に、このプロジェクトを通して、豊橋技術科学大学、高専機構、徳山高専、Queens College, Politeknik Seberang Perai, 及び Universiti Sains Malaysia に謝意を表します。また、本プロジェクトに参加するにあたり多くの方々に支援を頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。



ペナン校でのグローバル FD 研修修了式

豊橋技術科学大学  
グローバル工学教育推進機構  
国際教育センター  
愛知県豊橋市雲雀ヶ丘 1-1  
Tel: 0532-81-5161  
Mail: unireform@office.tut.ac.jp

**Toyohashi University of Technology,  
Institute for Global Network Innovation in Technology  
Education**

**News from Penang**

–Looking back over the past year–

**(Vol.11 2016/3/15)**



“I’m going to study English so that I can speak English within two years.” I made up my mind and started learning English hard in May 2013. When I found the application information of this training course, I believed it was arranged for me and applied it. Finally I was accepted one year later.

My mecca New York City never betrayed my expectation; it was miscellaneous, chaotic, dirty, lively and exciting. It was also free and tolerant. I met a lot of people there, they helped me and sometimes I helped them. I had a lovely six months in NYC.

As for me, I devoted myself to NYC so I had not had much expectation for Penang. But it was also a great time. I found that Malaysia has the diversity in Penang which is different from the one in NYC. I touched people’s welcome and warmth. I fulfilled the mission that I had some lectures in English. In Penang, I realized that every country has the history and the country as it is as the result of it. It is nothing special but I expanded my horizon. I might find the answer of the question that we were asked on Apr. 1<sup>st</sup>, “What is GLOBAL?”

By the way, I think what I can do after go back to Japan. I will keep in touch with not only my partners but professors and students in TUT, Queens College, USM and faculties of NIT who I never met in my school. I will find something I can do based on my experience in this course. Although my English is still terrible, I got a confidence that I can survive with my English. I’m going to keep on studying to improve my English.

Last of all I sincerely appreciate all people who related to this Global FD course. Thank you.

This global FD program gave me chances to meet many people. The most impressive experience was a friendship with Nicolas who was one of the classmates at ELI. Before we went to New York, I could not keep up with the others in teaching lessons at TUT. In the class, the instructor gave me an advice, “Be more confident! More passion!” but I could not have them enough at that time. In and out of the class at ELI, Queens College, Nicolas always encouraged me in conversation in English. After finishing the ELI, we started a seminar and I taught engineering to him for two hours every week. He earnestly listened to me and actively learned about my subject. I realized that students are the most important motivation for me to manage a class. After that, I tried to focus my mind on students more than teaching. In addition to Nicolas, many students and faculties at TUT and QC, my friends, and my family gave me a lot of encouragement during the program.

In the last part of the program, the lectures in Malaysia, I understood my strong point and I thought how I contribute to the students who attend my class, and I managed the classes in English with confidence. I appreciated the importance of interaction with students in class and I have all the students to thank for my satisfaction with this results. I met many great people through this journey and have looked into my inner self. Now I am feeling that these experiences cultivated my skills in global education.



It was only one year, but it gave me invaluable experiences in my life. The reason why I applied to this FD program was that I wanted to improve my English speaking skills as a teacher and researcher. When I learned about the offering for the FD program from our institute, I had just returned from an international conference held in Poland, where I could not satisfactorily communicate with people from different countries and felt isolated. At that time, I realized that I had to study English more and wanted to go abroad to study English. I hadn't stayed abroad longer than one month, so I was excited about joining the FD program when I got the notice which told me that I was chosen to be a member and I got the opportunity to study English for a year.

Honestly, I have focused on studying English rather than teaching in English during the program. In Queens College, I took the subject "College Writing" for a whole semester and tried to take time talking with language partners, instead of observing many different subjects. In the class of TiE, which is the special program for us, I tried talking a lot and asked a lot of questions using English.

The experience in Queens College made me get accustomed to setting small goals and trying to achieve them every time. The custom in my mind continued during my stay in Malaysia. I made objectives to archive the lecture for training each time.

It was only one year, but it changed my thought and strategy to overcome difficult situations. By setting small goals, I come to enjoy such situations. I believe a pile of these small goals must be reached to my dreams in the future. I really appreciate all the people who supported and helped me during the FD program.

I think that I could reach the starting point of global education through the faculty development program. I was given the opportunity to give lectures in English at the Universiti Sains Malaysia (USM) and the Politeknik Seberang Perai (PSP) in Malaysia. It is the most valuable experience for me that I gave these lectures in the end of the FD program because I could evaluate my skill of the teaching in English accurately. I really appreciate that the many Malaysian students attended my lectures although I was not good at English. Before the participation in the FD program, I didn't clearly know even which skills I should train to give a lecture in English. But now, I find those and can improve those by my own effort. Although I have to further develop my skills of the teaching in English if I hope that I give a higher-quality lecture, I can begin the teaching in English and give a lecture while improving the skills. I was also given the opportunity to consider globalization during my stay in United States and Malaysia. Of course speaking in English and production in foreign country don't mean globalization in essence. Although it is difficult to teach the essence of the globalization correctly, I believe that we have to give students more opportunities to meet foreign people and to come in touch with foreign cultures to learn and consider the globalization. It is also valuable experience for me to have met the teachers of other colleges who participated in the FD program with a high goal. They always motivated me to consider better education for the students in National Institute of Technology (NIT). I would like to thank them for attending the FD program with me. I also greatly appreciate the support to the FD program by all teachers and staffs in Toyohashi University of Technology (TUT) and NIT.

Before starting my training at NY, I was not sure if I could have English lectures for two hours. So I used to collect presentation materials which are useful for my lectures, and I attended an excellent lecture at QC. In order that I could explain easily, I adopted expressions that came out in the TiE class of QC. However, the more I study English, frankly speaking, the walls of the English seems even higher. The important thing is, the English exposure and training would result to the enhancement of my English knowledge and skill, to which it would be more beneficial in my English lectures.

Thinking back to the past year, I realized that English proficiency was improved through carrying out lectures and student guidance in English. The unexpected questions from the students during the classes and the spontaneous comments on research guidance of Final Project revealed my true knowledge and understanding of the English language. The practical training in Malaysia was a great opportunity to check my English.

The following are future challenges: First, I want to support foreign students. That's because they are good human resources that can be utilized for international exchange, including the local exchange. Second, I like to improve the quality of the international exchange program. I am planning to provide a highly educational program to more students. Third, I am going to conduct my technical subjects in English. By conducting some of my classes in fundamental English, students who are not good at it will be able to learn and use the English language with ease.

Lastly, to all the people who supported me throughout the global FD program, an endless gratitude to you!

The goal of this program is to improve our educational skills in order to let students possess so called the global communication skills. For instance, teaching in English is one of the methods to achieve the aim. We have to feed back to our education the knowledge we got from this program, which means we have to improve our various skills continuously although our program will be finished.

What is the globalization? What are the global communication skills? Is it to speak English? I strongly believe that English is just one of communication tools although speaking English is significantly important. To understand and to respect mutual personal and cultural background is the most important. If we force our cultural method on somebody without acceptance of one's cultural background, absolutely, we will fail to work together in global projects. That indicates we are required to explain our culture. Can you explain "what is Shinto?", "Why Japanese people celebrate Christmas?, you are not Christian, right?" (these are actual questions.)

If we understand each other, our communication must become better. NY city and Malaysia are one of diverse and multi cultural cities/nations. Fortunately, we could learn at such areas. I'd like to feed back these things to my students by various classes, club activities and so on.

Finally, I'd like to acknowledge to persons involved in this program in National Institute of Technology, NIT Hakodate College, Toyohashi University of Technology, Queens College, Politeknik Seberang Perai and Universiti Sains Malaysia (especially Engineering Campus), and I'm grateful for my wife who has been keeping everything about our house during this program.

I stayed in New York for 6 months and in Penang for about 2 months in this program. It was the first time for me to stay for a long time abroad. I have had an experience of knowing the differences in lifestyle and the way of thinking in the different countries. I noticed that I have the flexibility of being able to live abroad.

This program offered me the greatest opportunity for improving English reading, listening, writing, and speaking in my life. Although I feel the improvement of listening to English, I cannot feel the significant improvement of the others. Although this is due to my lack of effort, this is partly because it takes a long time to improve English skills, especially speaking. I need to continuously practice speaking English. I think that one of my roles is to tell my various experiences in this program to students.

I had not tried to teach my course in English and I had not thought that I could do that before this program started. After this program, I managed to clumsily give a lecture in English when I took enough time to prepare the lecture. To make my lecture in English effective, I need to improve my teaching skill as well as to increase phrases that I can use in my lecture. As a participant in this program, I want to contribute to the expansion of teaching in English in NIT.

I am going to become a member of the international office in my college this April. I want to utilize my experiences in this program to support students who go to abroad and come to my college from abroad.

Finally, I would like to thank all of you who have helped me to participate in this program.

I realized that I did not have a global mindset through the one-year program, Long-Term Faculty Development Program for nurturing global education and research abilities.

The reason why I joined this program was to improve my English skills. I had wanted to give students lectures in English. I thought I was able to give lectures in English by learning how to give lectures in English. As the result, students are able to improve their English skills by taking lectures in English.

I concentrated on what I should do to give lectures in English during my stay in Malaysia. Therefore I did not try to learn Malaysian Language and culture at all.

However some GFD member tried to learn Malaysian Language and make a greeting. When I saw that, I felt that making a greeting in Malaysian Language is better than in English. I realized this meant that trying to understand and communicate with each other was more important than speaking English well.

As a teacher who is with National Institute of Technology, I would like to think about what I should do for global human resource development. I would also like to give students lectures in English for students to utilize English as a tool.

Finally, I would like to express my sincerest thanks to Toyohashi University of Technology, National Institute of Technology, Tokuyama College, Queens College, Politeknik Seberang Perai, Universiti Sains Malaysia, and all the other people who supported this program.



Completion Ceremony of Global Faculty Development Program in TUT-USM Penang

Toyohashi University of Technology  
Institute for Global Network Innovation in Technology Education  
Center for International Education  
1-1, Hibarigaoka, Tempaku-cho, Toyohashi, Aichi, Japan  
Tel: +81-532-81-5161  
Mail: unireform@office.tut.ac.jp